

モデル事業

5件で課題整理

産学官検討体制を構築

国交省のCIM導入

国土交通省は、CIM（コンピュータシミュレーション・インフォメーション・モデリング）の導入に向けた産学官の検討体制を整えた。同省直轄の現場から5件のモデル事業を抽出した上で、各事業における建設業団体、学識者、国交省などによって、国交省は同省が制度

・基準を検討する「CIM制度検討会」、日本建設情報総合センター（JACIC）が技術的な課題を検証する「CIM技術検討会」を設置している。今回構築された産学官の検討体制は、二つの検討会の参加メンバーを中心に構成。各現場の設計者・施工者に加え、建設産業側から▽日本建設業連合会▽全国建設業協会▽日本橋梁建設協会▽建設コンサルタンツ協会▽全国各地調査業協会連合会など、官側から国交省やJACICなどが参加。学識者として、土木学会の大阪大学大学院の矢吹信喜教授らが協力する。

モデル事業の現場は、12年度から直轄の設計・

施工段階でCIMを試行している事業などから選び、各事業に個別の検討テーマを設定した。施工段階では、詳細設計にCIMを試行導入した北陸地方整備局発注の「萩原築堤護岸他工事」（施工・金森建設）を選考。情報化施工と連携したCIMの対応などを検討する。設計段階では、関東地方整備局発注の「佐久間道路浦川地区第一トンネル」（施工・大林組）では、設計段階でCIMを試行していないため、施工段階で構築するCIMモデルを設計段階にフィードバックする手法を検討する。

「横浜環状南線栄IC・JCT（仮称）」（設計・八千代エンジニヤリング）は、幅員（ふくそ）する都市インフラにおける事業計画全体の可視化、「国道4号東埼玉道路大落古利根川側道橋」（設計・大日本コンサルタンツ）では、設計・

CIMモデルを構築し、構築したモデルの利活用について検討する。昨年完成した胆沢ダム（岩手県）は、維持管理段階でCIMモデルを構築する初のケース。3次元化によって維持管理手法を高度化し、経年劣化を容易に把握できるよう

【建設ICT】

- | | | | |
|----------|--------|--------|-------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 4. 日経 |
| 4. 読売 | 5. 朝日 | 6. 毎日 | 5. 朝日 |
| 7. 産経 | 8. 朝日 | 9. 毎日 | 6. 毎日 |
| 10. 中部経済 | 11. 朝日 | 12. 毎日 | 7. 毎日 |
| 13. 建設通信 | 12. 朝日 | 13. 毎日 | 8. 毎日 |
| 16. 建設工業 | 13. 朝日 | 14. 毎日 | 9. 毎日 |

平成26年12月8日（朝）・夕）P1